



PRESIDENT'S MESSAGE

RI 会長メッセージ



インスピレーションになる

ロータリアンの皆さま

2分に1人、世界のどこかで、妊娠や出産によって女性が命を落としています。しかし、これは予防できることです。そして、誕生後6週間以内に母親を失う新生児は、母親がいる新生児よりも死亡率ははるかに高いといわれています。国際ロータリー（RI）会長として世界中を旅する中で、こういった事実がただの悲惨な統計上の数字ではなく、現実に直面している人々とも出会いました。また、母子を救うために全力を注いでいる人々とも出会ったおかげで希望を持つことができました。そして、このように全力を注ぐ人の多くがロータリアンであることを、私は誇りに思います。4月はロータリーの母子の健康月間ですから、皆さまも誇りに思ってくださいようなこととお話ししましょう。

昨年秋、ラトビアのイェカピルスにある病院を訪れました。近代的な病院で、医師や看護師は患者に寄り添い、熱心な仕事ぶりで熟練していました。しかし必死に努力しているにもかかわらず、母子の死亡率は依然として高いままでした。診断に欠かすことのできない設備や、保育器のような基本的な機器すらないという、彼らにとってはどうすることもできない原因のためです。

そこで、ロータリーの番です。世界中から21のクラブがグローバル補助金プロジェクトに参加し、この病院が必要としていた設備を提供したのです。私が9月にこの病院の産科病棟を訪れると、最新の設備がそろっていて、患者は必要なケアを——世界中のあらゆる母と子が受けるべきケアを——受けていました。

ブラジルでは、地元のロータリアンが日本のロータリアンと共に、リソース不足になっている新生児集中治療室の収容力を大幅に向上させるグローバル補助金プロジェクトを実施しました。新しい保育器やモニター、その他の設備によって、地元の病院で救われる新生児の数は毎年増えています。

モンゴルでは、ニュージーランドの職業研修チーム（VTT）が医師と助産師を対象とした緊急時対応技術の研修を企画し、助産師に近代的なベストプラクティスを教えるプログラムを立ち上げ、調査の上、モンゴルの文化に合った出産前教育のマニュアルを作成しました。チームが初めてモンゴルを訪れた2013年から2017年の間に、モンゴルの新生児死亡率は1,000人当たり11.2%から9.1%に減少し、妊産婦死亡率も減少しました。

私が思う変革的な奉仕というのはまさにこういうことで、ロータリアンが何より得意とすることでもありません。ロータリーが他に類を見ない奉仕活動を行うことができるのは、世界中に広がるロータリーのネットワーク、地域社会ではロータリーが人々の最も必要としていることを把握していて、会員たちが数えきれないスキルや職業にまたがる専門知識を持つおかげなのです。また、私たちを最も必要としている人々に援助の手を差し伸べることで、私たちは彼らのインスピレーションになることができるのです。

BARRY RASSIN

2018-19年度 国際ロータリー（RI）会長